

・ 視点アジア

[分かち合う世界へ]42、タイ 感染封じ込め本腰アジア自立支援機構代

表理事・小沼廣幸

2021/05/02 15:08

このところアジアで新型コロナウイルスのまん延が急速に拡大している。

世界保健機関（WHO）の統計では、4月23日のアジア地域の1日の新規感染者は約35万人だったが、1カ月前の5万人に比べるとその数が7倍に激増したことが分かる。同時期の欧米やアフリカでは増加傾向が横ばいか少し減少気味なのに比べ、アジアでの急増は特出している。

イギリス型を中心とする感染力の強い変異株のアジアへの急速なまん延が原因とみられているが、この激増のありさまは尋常でない。4月24日の英BBC放送によると、インドでは1日の新規感染者が33万人に達した。医療崩壊が慢性化し、それに加えて新しい「二重変異株」が関与しているというからより複雑だ。

日本やタイでもイギリス型変異株の急速なまん延が生じ、その中には、ブラジル型、南アフリカ型やインド型「二重変異株」が混ざり、将来、イギリス変異株に置き換わりまん延するタイミングを待っているような気がして不気味だ。そうなると若い年齢層への感染の拡大や死亡率の増加、抗体検査やワクチンの有効性への懸念がもっと高まる恐れがある。

タイでは、過去1年あまり、厳しい入国管理の下で、1日の新規感染者が100人前後で推移していたが、4月初旬よりその状況が一変した。

現地の情報によると、3月後半にバンコク市内の高級ナイトクラブで、イギリス型変異株とみられるクラスターが発生し、そこから日本人も含めて累計で500人以上の陽性者が出て、タイの正月休みが終わる4月15日には1543人に急増。24日にはさらに激増して1日で2839人と跳ね上がった。そのうちの半分以上の1582人の新規感染がバンコクで1日に発生、というニュースが飛び込んできて外出するのが怖くなった。

それにしてもなぜ陽性者が発生した初期の段階で、あのナイトクラブがすぐに閉鎖にな

らなかったのか、いろいろな臆測が飛んでいる。それとは別に、タイ政府の責任が問われているのはタイ正月を挟んだ大型連休中の人の移動の規制が甘かったことだ。

変異株の脅威への認識の甘さやワクチン接種の遅れ、経済活動優先の失策が、感染者激増の現実として市民にのしかかっている。

これはタイだけではないだろう。同じ様な経過や教訓を経た欧米諸国から学ぶことがたくさんあるはずなのに、政治判断のミスや遅れが、戻ることのない多くの尊い命や健康な日常を失う結果を招いている事実をわれわれは直視すべきだろう。

タイで4月26日から始まった緊急特別令はマスクの常時着用義務（車の運転中も）や飲食店での酒類の提供厳禁を法律で規定した。翌日、ある日本料理店で警察の手入れがあり、店主を含めて飲酒中の日本人客9人が逮捕された。プラユット首相が会議中にマスクを外し、約2万円の罰金を払わされたというニュースも話題になった。いまだにソフト対応な日本に比べ、タイは今回は本気なようだ。

<こぬま・ひろゆき> 1953年、東京都生まれ。明治大卒。筑波大大学院博士課程前期修了。博士（農学）。元国連食糧農業機関（FAO）事務局長補兼アジア太平洋局長。元明治大学特任教授。2017年にタイ王冠勲章を受章。18年、一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構を設立。両親、妻は本県出身。茨城県、バンコク在住。